

平成24年行政事業レビューシート (文部科学省)

事業名	大学スポーツ研究活動資源活用事業	担当部局庁	スポーツ・青少年局	作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度	担当課室	競技スポーツ課	競技スポーツ課長 杉浦 久弘			
会計区分	一般会計	施策名	XII-3 我が国の国際競技力の向上				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	—	関係する計画、通知等	スポーツ基本計画(平成24年3月30日策定) スポーツ立国戦略(平成22年8月26日策定) スポーツ振興基本計画(平成18年9月21日改定)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学は、競技団体(以下「NF」という)と連携した体制の下、大学の有する資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、先駆的な研究に基づいた強化を実施している。こうした大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という)、国立スポーツ科学センター(以下「JISS」という)、NFのワークショップでコーチや研究者などに普及・啓発を図ることで我が国全体の競技力の向上を目指す。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進。 また、JISS、NTCを活用し、当該大学以外のコーチングスタッフや研究者などに対して研究成果などを実践的に普及。						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求	
	予算の状況	当初予算			50	50	50
		補正予算			-		
		繰越し等			-		
		計			50	50	50
		執行額			47		
	執行率(%)			94.0%			
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル獲得数	成果実績	メダル獲得数		冬季:5		夏季:38
		達成度	%		45.5%		
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進した大学数	活動実績 (当初見込み)	ヶ所			5	—
						(5)	(5)
単位当たりコスト	1大学当たりのコスト(9,443,496円/1ヶ所)	算出根拠	単位当たりコスト=平成23年度大学スポーツ研究活動資源活用事業執行額(47,217,481円)/大学数(5大学)				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由			
	職員旅費、スポーツ振興事業委託費	50百万円	50百万円				
	計	50百万円	50百万円				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	本事業は、スポーツ立国戦略の「トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築」においてその必要性が明記されるなど、政策の優先度が極めて高い事業であり、また、トップアスリートの活躍は、国民に誇りと喜び、夢と感動などをもたらすものであり、広く国民のニーズがある事業である。なお、オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得といった事業目的を達成するためには、統括競技団体、中央競技団体及び強化・研究関係機関との連携を図りながら事業を進めることが重要であることから、国が総合的に推進していく必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出(委託)先の選定に当たっては、十分な公告期間を確保した上で公募(企画競争)を実施しており、その妥当性や競争性を確保しているところ。 なお、委託事業の契約及び委託額の確定手続きに当たっては、事業経費の費目・用途の内容を厳正に審査するなど、その必要性について適切にチェックを行っているところである。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	大学に対する委託事業として実施しているが、効果的にトップアスリートの競技力向上につなげるべく、統括競技団体、中央競技団体と協議し、効率的かつ実効性の高い運用を行っているところ。 また、当該事業は「スポーツ立国戦略」に基づき、オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得といった定量的な目標値を設定した上で実施しており、自己評価を行うなど、着実な実施に努めている。 さらに、当該事業で得られた研究成果(報告書)は、統括競技団体、中央競技団体、強化・研究拠点等と共有を図るために連携・協力して行うワークショップや合同合宿を実施することで、オールジャパンでの効率的活用ができるような措置を実施しているところ。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の執行状況に係る点検方法については、委託先団体から提出される委託事業完了報告書、証拠書類(賃金出納簿、見積書、納品書、請求書、領収書等)により適切な執行がなされているか、検査を行った。 ・資金の流れ、用途の点検方法については、定期的に事務担当者との連絡を取り、事業の進捗状況と経費支出状況を聴取することで、適切な執行がなされているか確認を行った。 ・活動実績に係る点検方法については、委託先団体から提出される委託事業完了報告書により、事業の実施内容や目標の達成度合いについて確認している。 ・事業成果としては、5大学に対し委託を行い、国全体として戦略的にトップアスリートのための強化・研究活動を行う体制の整備が推進された。 ・本事業により、オリンピック競技大会における過去最多を超えるメダル数の獲得に向け、トップアスリートのための強化・研究活動を行う体制の整備を推進しているが、他大学からの要望もあり、限られた予算の範囲内でいかに効果的に事業を実施し、統括競技団体、中央競技団体、強化・研究拠点等といかに効率的に情報共有するかが課題となっており、事業内容の精査を図っていく必要がある。 		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事業評価の観点：この事業は、ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター、国立スポーツ課センター、競技団体のワークショップでコーチや研究者等に普及・啓発を図り、我が国全体の競技力の向上を目指す事業であり、予算執行状況の観点から検証を行った。 2. 所見：当該事業は、概ね計画通りに予算執行されているが、更なる事業の効率化を目指し、積算単価を再検証するなど、引き続きコスト削減に努めるべきである。 		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	平成25年度概算要求において、備品費・賃金等の積算を見直し、概算要求に▲5百万円反映した。		
補記(過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
スポーツ基本計画について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/index.htm スポーツ立国戦略について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/1297182.htm スポーツ振興基本計画について： http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014.htm			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	-	平成23年行政事業レビュー	新23-0080

文部科学省 47百万円

職員旅費 0.2百万円を含む

ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学は、競技団体(以下「NF」という)と連携した体制の下、大学の有する資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、先駆的な研究に基づいた強化を実施している。こうした大学の資源を活用し、各競技の集積拠点であるナショナルトレーニングセンター(以下「NTC」という)、国立スポーツ科学センター(以下「JISS」という)、NFのワークショップでコーチや研究者などに普及・啓発を図ることで我が国全体の競技力の向上を目指す。



【公募・委託】

A. 大学スポーツ研究活動資源活用事業:47百万円
大学(全5大学)

ナショナルレベル競技者の育成実績を有する大学の資源(トレーニング環境、コーチなど指導者、その他の分野の研究者など)を活用し、NFやJOCと連携して、競技力向上のための先駆的な研究活動を推進する。
また、JISS、NTCを活用し、当該大学以外のコーチングスタッフや研究者などに対して研究成果などを実践的に普及する。

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A.国立大学法人信州大学			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
旅費	合宿帯同旅費、競技会帯同旅費等	4			
賃金	アシスタントスタッフ賃金	3			
消耗品費	研究関係消耗品費等	1			
その他	研究設備備品費、会議費、消費税相当額等	1			
一般管理費	上記経費の10%	1			
計		10	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.大学スポーツ研究活動資源活用事業

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	国立大学法人信州大学	競技力向上のための先駆的な研究活動を推進し、研究成果などを実践的に普及する。	10	企画競争	—
2	順天堂大学	競技力向上のための先駆的な研究活動を推進し、研究成果などを実践的に普及する。	10	企画競争	—
3	至学館大学	競技力向上のための先駆的な研究活動を推進し、研究成果などを実践的に普及する。	10	企画競争	—
4	国立大学法人筑波大学	競技力向上のための先駆的な研究活動を推進し、研究成果などを実践的に普及する。	9	企画競争	—
5	日本体育大学	競技力向上のための先駆的な研究活動を推進し、研究成果などを実践的に普及する。	8	企画競争	—